睡眠の発達に及ぼす影響についての臨床研究

睡眠についての臨床研究では以下のことを行っております。

睡眠障害・睡眠不足は日中の情緒・行動だけではなく、肥満、耐糖能、インスリン抵抗性にも影響を及ぼすことが研究されております。我々は、重症閉塞性睡 眠 時無呼吸症候群の寝たきりの 37 歳女性（重症心身障害）に経鼻的持続陽圧呼吸療法（nCPAP）を導入し、栄養摂取量が一定であるにも関わらず、治療導入 後に体重が減少したことを報告しました。

・Kato-Nishimura et al. Body weight reduction by CPAP treatment in a bedridden patient. Sleep Med. 2008;9(2):207-8.

また、近年レストレスレッグズ症候群が不眠の原因として知られてきております。我々は小児でも多くみられ、鉄剤が有効であることを報告しました。

・ Mohri et al. Evaluation of Oral Iron Treatment in Pediatric Restless Legs Syndrome (RLS). Sleep Med. 2012;13(4):429-32.

・レストレス・レッグズ症候群, 毛利育子、チャイルドヘルス 10(9):13-14. 2007.

・子どもの睡眠時無呼吸症候群、加藤久美、チャイルドヘルス　10(9):12-13. 2007.

・発達障害児における睡眠障害、谷池雅子、チャイルドヘルス 10(9):14-15. 2007.

・谷池　他.　小児科領域の睡眠呼吸異常　立花直子編、睡眠医学を学ぶために専門医の伝える実践睡眠医学、永井書店、306-312,2006.

・南保　他　編、パルスオキシメトリ　アトラス、小池メディカル、1-38,2006.

・Kato-Nishimura et al (2008) Body weight reduction by CPAP treatment in a bedridden patient. Sleep Med 9:207-208

・ Nabatame S, Taniike M, Sakai N, Kato-Nishimura K, Mohri I, Kagitani-Shimono K, Okinaga T, Tachibana N, Ozono K. Sleep disordered breathing in childhood-onset acid maltase deficiency.　Brain Dev. 2008 May 19.

・Mohri I, Kato-Nishimura K, Tachibana N, Ozono K, Taniike M. Restless legs syndrome (RLS): an unrecognized cause for bedtime problems and insomnia in children. Sleep Med. 2008 Aug;9(6):701-2.

・Restless legs 症候群、毛利育子、Clinical Neuroscience 27(2):176-180. 2009.

レストレスレッグズ症候群や睡眠時無呼吸症候群など、小児にも早期発見すべき睡眠障害があります。治療に早くつなげるため、スクリーニングする方法と

して、小児の睡眠質問票を開発しました。　子どもの眠りの質問票（http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/kokoro /JSQP20130822.pdf）に飛ぶように設定してください。

・三星ら.日本版小学生睡眠質問票の開発　小児保健研究. 2013 in press.
・ Shimizuet al. Psychometric Properties and Population-Based Score Distributions of the Japanese Sleep Questionnaire in Preschool Children. Sleep Medicine. in press.
・ 三星ら。日本の幼児の睡眠習慣と睡眠に影響を及ぼす要因について.小児保健研究 2012;71:6:808-816.
・ 清水ら. 日本版幼児睡眠質問票の開発 小児保健研究 2010; 69;6, 803-813.

睡眠関連疾患の治療前後での、日中の情緒・行動等がどう変化するのか、体動解析による睡眠評価法の開発、小児の閉塞性睡眠時無呼吸症候群と骨計測による顎形態との関連など、様々な研究を行っております。